

次に、第2の柱

『ふるさとを愛する豊かな心づくり』についてであります。

学校教育につきましては、こどもたちが確かな学力を身につけ、自分自身の夢を描き、その夢に向かって成長していける「未来志向の教育」に継続して取り組んでまいります。

学力育成では、3年目となる「学力育成プロジェクト事業」として、算数・数学・理科・英語を中心に、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善や、本物にふれる体験学習、科学の本を読む習慣を身につけるための「理科読」といった取り組みを進めてまいります。

教育の魅力化では、これまでの小・中・高の連携による「ゆめ未来講演会」の開催に加え、島根県立大学と大田高校・邇摩高校・市教育委員会の4者でこのたび締結した連携協定により、世界遺産・日本遺産などをキーワードに、大学生、高校生並びに小中学生が各々取り組んできた石見銀山学習や遺跡保全などの活動を繋ぎ、交流を推進することで、互いの理解と学びを深めてまいります。

教育機会の確保では、特別支援教育などに対する支援員や介助員の配置はもとより、今年度から配置している「幼児教育アドバイザー」や、外国にルーツを持つ児童に対しての「日本語指導協力員」をそれぞれ継続配置し、小学校への就学や、慣れない環境下での学習や生活がより円滑にできるよう支援してまいります。

教職員の働き方改革では、4月から稼働する「統合型校務支援システム」により教職員の事務処理の負担軽減を図るとともに、市内各校においては、それぞれの実態に即した取り組みを、「学校運営協議会」を通じて地域や保護者の理解と協力を得ながら着実に進めてまいります。

社会教育につきましては、社会教育推進センターを廃止し、各まちづくりセンターが主体的に、着実に取り組むことができるよう、「地域学校協働本部事業」により「社会教育コーディネーター」を市内5つの中学校区に配置するとともに、連携協定を締結している国立三瓶青少年交流の家の人材や機能などとの連携体制を構築してまいります。

図書館につきましては、大田市中央図書館及び仁摩図書館内のWi-Fi環境を整備し、インターネットサービスを無料でご利用いただけるようになりました。こうした環境を活かしながら、中・高生の学習や市民の交流スペースとして一部を開放するなど、親しみやすい図書館への取り組みを積極的に進めてまいります。

芸術文化の振興につきましては、芸術文化を通じて、豊かな人間性が育まれ、個性豊かな地域づくりが進むよう、芸術文化活動に対する支援制度を新たに創設いたします。また、4月から運用を始めます市民会館の「生涯学習エリア」のスムーズな利用に向けて、利用される各種生涯学習団体へのサポートを行ってまいります。

スポーツの振興につきましては、競技人口の減少や部活動の地域移行、2030年に開催が予定されている「島根かみあり国スポ・全スポ」といった、本市のスポーツ環境の変化に対応していくため、大田市体育協会が取り組む組織体制の強化に対して積極的に支援してまいります。

また、連携協定を締結している日本体育大学の協力のもと、スポーツ指導者の育成や競技力の向上などに取り組むほか、これらの一環として、こどもたちがトップアスリートと触れる機会を創出してまいります。

島根かみあり国スポ・全スポにつきましては、新年度に弓道・空手道・銃剣道の中央競技団体による正規視察が予定されておりますので、県や各競技団体と十分に連携を図りながら、対応してまいります。

コロナ禍の影響によりオンライン開催としておりました**三瓶西の原クロスカントリー大会**につきましては、4年ぶりの現地開催に向けた準備を進めてまいります。

山村留学につきましては、拠点施設である山村留学センターが開所20周年を迎えることから、運営や活動にご支援いただいた関係者の皆さんとともに、この節目の年をお祝いし、これまでの足跡を振り返る記念事業を実施いたします。

一方で、農家でのこどもの受け入れが困難になりつつあることや、センターが築20年を経過し、劣化が進んでいることに加え、事業実施にかかる財源の確保が厳しくなることから、学校のあり方とあわせて、山村留学のあり方についても検討してまいります。